

2026年7月海洋観測結果について

6月29、30日に栽培漁業センターの調査船「おしどり」により海洋観測を以下の表1、図1の調査点で行いました。調査結果については、当センターホームページ（<https://www.pref.tottori.lg.jp/dd.aspx?menuid=201810>）と沿海漁協にはファクシミリで通知します。

表1 観測定点

	調査点	海底水深	経度	緯度
赤碕ライン	ST-1	16m	133.41	35.3100
	ST-2	50m	133.40	35.3430
	ST-3	70m	133.40	35.3736
	ST-4	95m	133.40	35.4340
	ST-5	185m	133.40	35.4805
長尾鼻ライン	ST-6	185m	134.00	35.4300
	ST-7	95m	134.00	35.4000
	ST-8	70m	134.00	35.3700
	ST-9	50m	134.00	35.3400
	ST-10	13m	134.00	35.3200

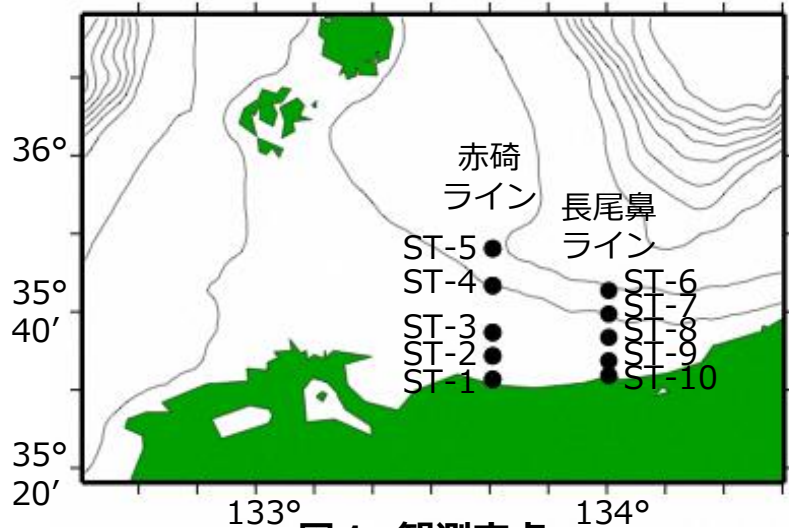


図1. 観測定点

【鉛直分布図】

赤碕ライン、長尾鼻ラインともに表面水温は22℃と前月より2℃上昇していました。

また水深30～90mも同様に昇温しており、17～21℃台と、前月より3～5℃高く推移していました。

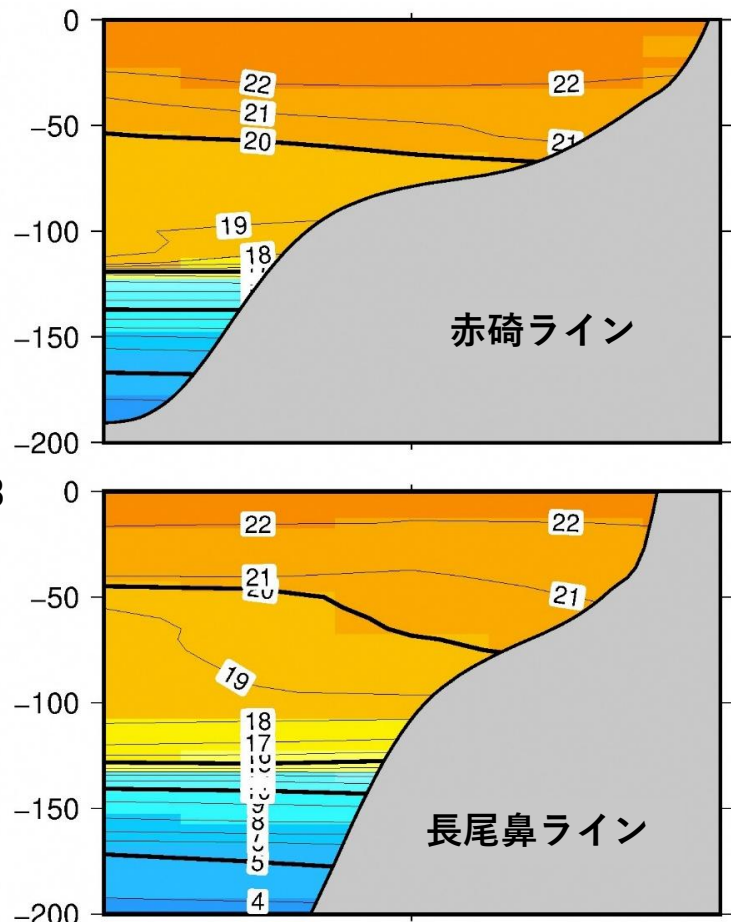


図2 鉛直分布図（海水温の単位：℃）

【水深帯別の比較】

長尾鼻及び赤碕ともに、表面水温は平年より0.4～0.7℃低く推移していました。一方、水深30～90mの水温は平年より1.1～1.8℃高くなっていました(表2)。

表面水温が平年より低く推移した要因としては、6月下旬は曇りの日が多く、日照時間が平年よりも30時間ほど短かったことが影響していると考えられます。

また水深30～90mの水温が平年より高く推移した要因としては、5月から続いた対馬暖流の勢力拡大が6月以降も継続したことが影響していると考えられます。

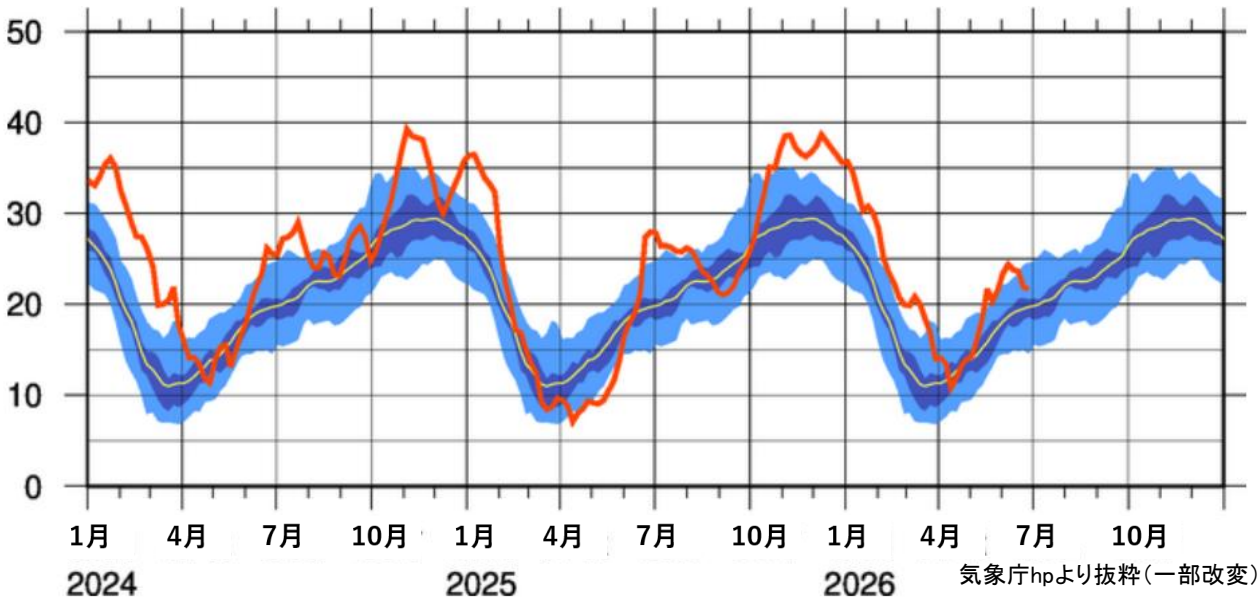
今後は、夏に向かい気温が上昇し、対馬暖流の勢力も拡大することが見込まれるため、表面から90mまでの海水温は平年より高めで推移されることが予想されます。

表2. 赤碕及び長尾鼻ラインの7月平均水温

調査定線	赤碕ライン (133° 40')				長尾鼻ライン (134° 00')			
水深帯	0m	30m	50m	90m	0m	30m	50m	90m
2026年	22.7	21.9	20.8	19.1	22.4	21.7	20.4	19.2
前年	25.0	21.0	19.4	17.0	25.6	21.4	20.1	17.6
2010-25年平均	23.1	20.8	19.4	17.3	23.1	20.5	19.3	17.4
平年差	-0.4	1.1	1.4	1.8	-0.7	1.2	1.1	1.8

(℃)

図1. 対馬暖流域の時系列



< 参考 >

気象庁.“過去の気象データ検索”.気象庁.
https://www.data.jma.go.jp/kaiyou/data/db/kaiyou/tsushima/tsushima_area.html